



## ご挨拶

中村, 千春  
釜谷, 武志

---

**(Citation)**

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 9:1-2

**(Issue Date)**

2011-01-30

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002691>



## ご挨拶

神戸大学理事 副学長  
中村 千春  
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター長  
釜谷 武志

第9回 歴史文化をめぐる地域連携協議会へのご参加、ありがとうございます。

神戸大学大学院人文学研究科(文学部)では、大学の地域貢献事業の一環として、平成14年(2002)の11月に地域連携センターを設置し、それ以来、歴史文化の保全・活用を目的とする自治体やNGOとの連携事業を進めてまいりました。現在、いくつかの県内自治体や住民組織との間で、具体的な事業が動きつつあります。各事業をご支援いただいている皆様に厚く御礼申し上げます。

センターでは各年度末に、1年間の活動を集約する意味をこめて、県内の自治体職員・市民団体代表者・大学関係の方々に一堂に会していただき、歴史遺産の保全・活用について議論する協議会(コンファレンス)を開催しております。今まで合わせて8回の協議会を開き、毎回たくさんの方々にご議論をいただいております。

さて、これまでのセンターの活動で明らかになってきたのは、地域における歴史文化の担い手の重要性です。近年、地域のコミュニティの解体が進行する中で、地域歴史遺産は、地域の人々の結びつきを形作っていく中核となりうるものです。しかしきわめて多様なものを含む地域歴史遺産を保全し、次世代に継承していくためには、研究者や自治体だけの取り組みだけではなく、歴史文化に対する市民の幅広い関心の存在が不可欠です。またそれとともに、歴史文化を活かした地域づくりが大きな成果をあげているところでは、地域歴史遺産の保全・活用に主体的に取り組む市民や、それを支援する自治体職員の努力があり、それが原動力となっています。

こうした認識にもとづき、地域連携センターでは、単なる知識の提供にとどまらない、継続的な連携事業の推進や、市民の主体的な活動をうながす環境の整備などを意識して、活動を進めております。その中で、今年度から3年間、文部科学省より特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」の採択を受け、さらに具体的な事業を展開し始めました。

その一環として、昨年6月には、県内の20以上の自治体や市民団体、学内組織とともに、「地域歴史文化連携コンソーシアム」を結成して、より実践的な課題を議論する場をつくりました。また昨年末には、地域の歴史文化により積極的な関心を持つ市民が学べる場を提供することをめざして、「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の試行プログラムを実施いたしました。さらに兵庫県教育委員会との間では、現在、歴史文化を担う人材の育成に関する実践的な調査・研究をおこなうための「覚書」締結の交渉をすすめています。

こうした取り組みの中で交わされた議論を踏まえ、さらにその内容を深めていくために、今年度の協議会では、「地域歴史文化を担う人材像を考える」というテーマを掲げました。平成 18 年度の第 5 回地域連携協議会「地域の歴史文化を担う人材の育成と大学の役割」では、将来、地域歴史文化の担い手となる学生・大学院生の教育について議論しましたが、今年度は、地域歴史文化を担う人材像や、そうした人材を生み出すための環境の整備といった課題について、さらに包括的な検討をおこなっていきたいと思います。これを通じて、歴史文化の保全・活用をめぐる市民・行政・大学間の連携関係を深めていきたいと存じます。どうか活発なご議論を宜しくお願いいたします。

なお本年度の協議会も、昨年に引き続き、異なる専門分野の学問を理解し、融合する能力を持つ人文学研究者の養成をめざす文部科学省・平成 22 年度大学院教育改革支援プログラム「古典力と対話力を核とする人文学教育」のフォーラム企画としても開催され、多くの学生・大学院生も参加しております。

また協議会の中に時間をとり、各団体の方々が交流できるよう、成果物や書籍の展示・交流コーナーを設けました。多くの方々に交流していただければ幸いです。

最後になりましたが、本協議会のご後援を賜りました多くの自治体、各機関に対して厚く御礼申し上げます。